

平成25年度宮古群島病害虫発生予報第12号(3月予報)

I 3月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	20	20	40
平年並	40	40	40
低い(少ない)	40	40	20

(平成26年2月21日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(℃)	最高気温(℃)	最低気温(℃)	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	20.0	22.7	17.7	137.8	112.0

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

II 3月の発生予報および防除上の注意事項

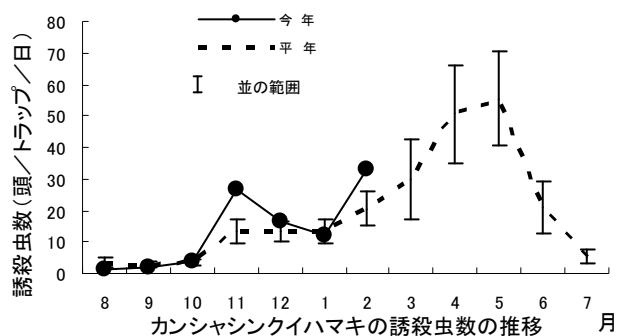
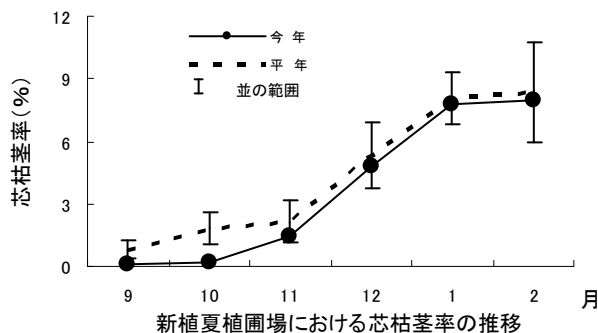
1 さとうきび

(1) カンシャシクイハマキ

発生程度 : 並

予報の根拠

- a 2月中旬の調査の結果、新植夏植圃場における芯枯茎率は8.0%(前年4.2%、平年8.3%)と平年並であった。
- b 2月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は32.9頭(前年16.6頭、平年20.5頭)と平年よりやや多かった。

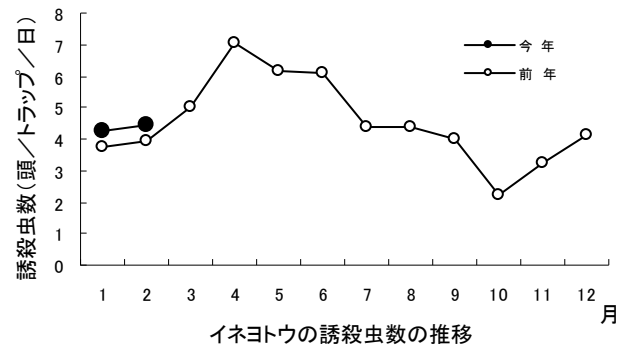
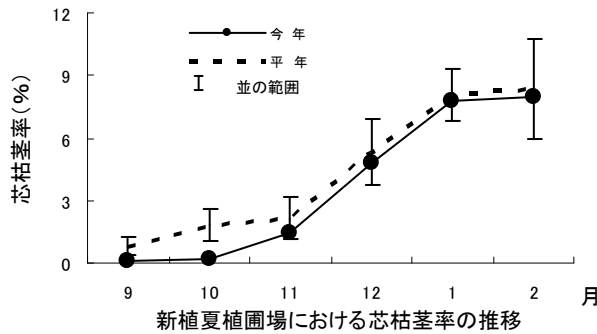


<防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- c 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- d 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- e 植え付け時および培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- f 平成24年度病害虫発生予察技術情報第3号参照(平成24年6月11日付)。

○ イネヨトウの防除対策

- a 2月中旬の調査の結果、新植夏植圃場における芯枯茎率は8.0%(前年4.2%、平年8.3%)と平年並であった。
- b 2月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は4.5頭(前年3.9頭)であった。



<防除上注意すべき事項>

- a カンシャシクイハマキの防除上注意すべき事項を参照。
- b 平成25年度病害虫発生予報第6号(平成25年8月30日付)号コラム参照。

2 マンゴー

○ 炭疽病の防除対策

- a 2月中旬の調査の結果、発病枝率は18.0%であった。
- b 本病の病原菌は花芽、花序、葉などにすでに潜在感染していることが知られており、収穫果実への被害軽減のため、今後袋がけ前までの防除対策が重要である。
- c 罹病した新梢、残渣は速やかに施設外に持ち出し処分する。
- d 結実期には治癒効果のある薬剤を選定し、定期防除に努める。
- e 平成25年度病害虫発生予報第6号(平成25年11月29日付)号コラム参照。

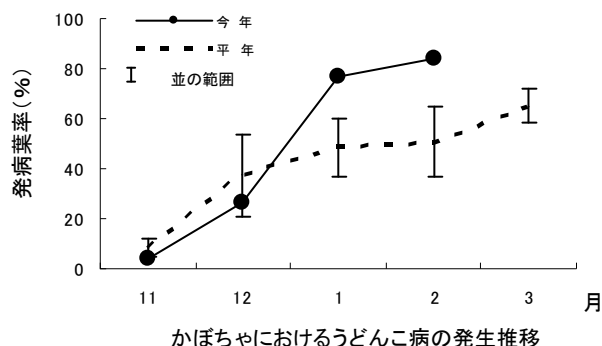
○ チャノキイロアザミウマの防除対策

- a 2月中旬の調査の結果、一部圃場で発生していた。
- b 開花期以降は本種が増加する可能性があるため、早期防除に努める。
- c 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- d 開花中の圃場では受粉昆虫に影響の少ない薬剤を選択する。着果が進んでいる場合には薬剤による防除を徹底する。

3 かぼちゃ

- (1) うどんこ病
発生程度 : 多
予報の根拠

2月中旬の調査の結果、発病葉率は83.8% (前年59.3%、平年49.3%)と平年より高かった。



<防除上注意すべき事項>

- 株元の老葉を除去し、透光・通風をよくする。
- 多発すると防除が困難になるので、葉の表裏をよく観察し、早期防除に努める。
- 着果後は防除を徹底し、収穫時まで出来るだけ多くの健全葉を確保する。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

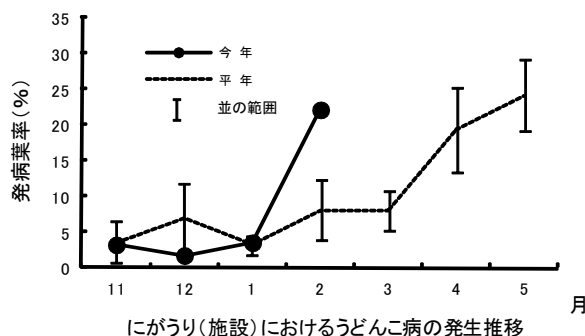
○ モザイク病の防除対策

- 2月中旬の調査の結果、発病株率は5.0% (前年0%、平年5.5%)と平年並であった。
- 媒介虫であるアブラムシ類の葉当たり虫数は0.43頭 (前年0頭、平年1.51頭)と平年よりやや少なかった。
- 圃場周辺に防風対策を兼ねた防虫ネット等の資材を利用して有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- 圃場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源になるので除草を行う。
- 発病株は発生源となるので、見つけ次第抜き取りビニール袋に入れるなどして密閉処理し、圃場外へ持ち出し処分する。
- 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒、洗浄を行う。
- 収穫後の残渣は発生源となるので速やかに片づける。

4 にがうり(施設)

- (1) うどんこ病
発生程度 : やや多
予報の根拠

2月中旬の調査の結果、発病葉率は22.2% (前年0%、平年8.1%)と平年より高かったが、一部圃場で多発した。



<防除上注意すべき事項>

- 発生源となる不要な老葉・下葉を除去し、透光通風をよくする。
- 除去した葉は圃場内に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして持ち出し処分する。
- 薬剤防除は予防散布に重点をおく。

5 どうがん(施設)

- ミナミキイロアザミウマの防除対策
 - a 2月中旬の調査の結果、葉あたり成虫数は0.1頭未満(前年0頭、平年0.1頭)、つる先あたり成虫数は0.2頭(前年0.5頭、平年0.5頭)と平年よりやや少なかった。
 - b 発生源となる圃場内外の雑草を除去する。
 - c 除去した寄主植物はビニール袋などに密閉し、施設外に持ち出し処分する。
 - d 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。